

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東北財務局長
【提出日】	平成29年10月10日
【四半期会計期間】	第37期第2四半期(自 平成29年6月1日 至 平成29年8月31日)
【会社名】	株式会社 薬王堂
【英訳名】	YAKUODO. Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 西 郷 辰 弘
【本店の所在の場所】	岩手県紫波郡矢巾町大字広宮沢第3地割242番地1
【電話番号】	019-697-2615 (代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 小 笠 原 康 浩
【最寄りの連絡場所】	岩手県紫波郡矢巾町大字広宮沢第3地割242番地1
【電話番号】	019-697-2615 (代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 小 笠 原 康 浩
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第36期 第 2 四半期累計期間	第37期 第 2 四半期累計期間	第36期
会計期間	自 平成28年 3 月 1 日 至 平成28年 8 月31日	自 平成29年 3 月 1 日 至 平成29年 8 月31日	自 平成28年 3 月 1 日 至 平成29年 2 月28日
売上高 (百万円)	37,672	41,737	74,912
経常利益 (百万円)	1,850	2,301	3,509
四半期（当期）純利益 (百万円)	1,154	1,569	2,334
持分法を適用した場合の 投資利益 (百万円)	—	—	—
資本金 (百万円)	1,080	1,080	1,080
発行済株式総数 (株)	6,580,400	19,741,200	19,741,200
純資産額 (百万円)	13,188	15,563	14,369
総資産額 (百万円)	32,545	36,059	32,346
1 株当たり四半期（当期） 純利益金額 (円)	58.48	79.49	118.28
潜在株式調整後 1 株当たり 四半期（当期）純利益金額 (円)	—	—	—
1 株当たり配当額 (円)	—	—	19.00
自己資本比率 (%)	40.5	43.2	44.4
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,591	3,574	4,212
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△2,104	△1,929	△3,520
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	128	△481	△8
現金及び現金同等物の 四半期末（期末）残高 (百万円)	2,615	2,847	1,683

回次	第36期 第 2 四半期会計期間	第37期 第 2 四半期会計期間
会計期間	自 平成28年 6 月 1 日 至 平成28年 8 月31日	自 平成29年 6 月 1 日 至 平成29年 8 月31日
1 株当たり四半期純利益金額 (円)	32.10	39.06

- (注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため記載しておりません。
3. 潜在株式調整後 1 株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 平成28年12月 1 日付で普通株式 1 株につき 3 株の割合で株式分割を行っております。平成29年 2 月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1 株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

2 【事業の内容】

当第 2 四半期累計期間において、当社が営む事業の内容については、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国の経済は、雇用環境や個人消費の改善が見られ、緩やかな回復基調で推移しているものの、米国の政策運営の動向や北朝鮮情勢などにより、先行きは不透明な状況で推移いたしました。

当社の営業基盤であります東北地方においても、個人消費は緩やかに回復しつつあるものの、復興需要が収束しつつあることに加え、チェーンストア業界の競争激化により、厳しい経営環境となりました。

このような状況の中、当社は、販売価格や品揃えの強化を図り、来店客数及び買上点数の増加に取り組むとともに、小商圈ドミナント出店を推進し、ドラッグストアを岩手県に4店舗、青森県に3店舗、宮城県に5店舗、山形県に1店舗の合計13店舗を新規出店いたしました。また、岩手県のドラッグストア2店舗を退店し、当第2四半期会計期間末の店舗数は232店舗（うち調剤併設型3店舗、調剤専門薬局1店舗）となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間における売上高は417億3千7百万円（前年同四半期比10.8%増）、営業利益は19億6百万円（前年同四半期比10.7%増）、経常利益は23億1百万円（前年同四半期比24.4%増）、四半期純利益は15億6千9百万円（前年同四半期比35.9%増）となりました。

また、部門別の業績は次のとおりであります。

① ヘルスケア部門

医薬品は感冒薬や健康食品等が伸張り、衛生用品では介護用紙おむつ等が伸張いたしました。調剤も堅調に推移いたしました。その結果、売上高は前年同四半期比6.4%増加し、92億8千3百万円となりました。

② ビューティケア部門

化粧品はセルフ化粧品や男性化粧品等が伸張り、トイレットリーではオーラルケアやボディソープ等が伸張いたしました。その結果、売上高は前年同四半期比8.8%増加し、71億2千万円となりました。

③ ホームケア部門

日用品は仕上剤や家庭紙、台所用品等が伸張り、衣料品ではタオル類や履物、肌着等が伸張いたしました。その結果、売上高は前年同四半期比13.5%増加し、54億3千2百万円となりました。

④ コンビニエンスケア部門

食品は飲料や菓子、日配品等が伸張り、酒類ではビール類や酎ハイ等が伸張いたしました。バラエティ部門はペット関連商品等が伸張いたしました。その結果、売上高は前年同四半期比13.0%増加し、199億円となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期会計期間末の流動資産は161億5千2百万円となり、前事業年度末に比べ24億5千6百万円の増加となりました。主な増加要因といたしましては、現金及び預金が11億6千4百万円増加したことで新規出店等に伴う商品の増加が9億4千4百万円あったことがあげられます。

固定資産は199億7百万円となり、前事業年度末に比べ12億5千6百万円の増加となりました。主な増加要因といたしましては、新規出店に伴う建物等の有形固定資産の増加が11億9千3百万円あったことがあげられます。

この結果、資産合計は360億5千9百万円となり、前事業年度末に比べ37億1千2百万円の増加となりました。

流動負債は158億9百万円となり、前事業年度末に比べ25億4千3百万円の増加となりました。主な増加要因といたしましては、買掛金が21億3千1百万円増加したことがあげられます。

固定負債は46億8千6百万円となり、前事業年度末に比べ2千4百万円の減少となりました。

この結果、負債合計は204億9千6百万円となり、前事業年度末に比べ25億1千9百万円の増加となりました。

純資産合計は155億6千3百万円となり、前事業年度末に比べ11億9千3百万円の増加となりました。主な増加要因といたしましては、利益剰余金の増加が11億9千4百万円あったことがあげられます。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ11億6千4百万円増加し、28億4千7百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローとそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は35億7千4百万円（前年同四半期比0.5%減）となりました。これは、税引前四半期純利益が23億1百万円となったことや仕入債務の増加が21億3千1百万円あったこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は19億2千9百万円（前年同四半期比8.3%減）となりました。これは、主に新規出店に伴う有形固定資産の取得による支出が17億4千6百万円あったこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は4億8千1百万円（前年同四半期は1億2千8百万円の収入）となりました。これは、長期借入れによる収入が10億円ありましたが、長期借入金の返済による支出が11億3百万円あったことや配当金の支払額が3億7千4百万円あったこと等によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	61,200,000
計	61,200,000

② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年8月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年10月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	19,741,200	19,741,200	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株で あります。
計	19,741,200	19,741,200	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年6月1日～ 平成29年8月31日	—	19,741,200	—	1,080	—	1,122

(6) 【大株主の状況】

平成29年8月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社TKコーポレーション	岩手県紫波郡矢巾町大字白沢第5地割116	7,584,000	38.42
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	2,185,600	11.07
薬王堂従業員持株会	岩手県紫波郡矢巾町大字広宮沢第3地割242番地1	726,900	3.68
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	723,300	3.66
西郷 辰弘	岩手県紫波郡	498,000	2.52
西郷 喜代子	岩手県紫波郡	498,000	2.52
JP MORGAN CHASE BANK 380634 (常任代理人 株式会社みずほ銀行 決済営業部)	25 BANK STREET, CANARY WHARF, LONDON, E14 5JP, UNITED KINGDOM (東京都港区港南2丁目15-1 品川インター シティA棟)	380,750	1.93
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS (常任代理人 香港上海銀行東京支 店)	33 RUE DE GASPERICH, L-5826 HOWALD-HESPERANGE, LUXEMBOURG (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	330,000	1.67
伊藤 昭	埼玉県北葛飾郡	300,000	1.52
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町1丁目13-1	216,500	1.10
計	—	13,443,050	68.10

(注) 1. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社の所有株式の内訳は、(信託口) 1,586,700株、(信託口1) 132,500株、(信託口2) 139,800株、(信託口4) 48,600株、(信託口5) 181,500株、(信託口6) 73,100株、(信託口9) 23,400株であります。

2. 平成28年8月4日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書の変更報告書において、三井住友アセットマネジメント株式会社が平成28年7月29日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書の変更報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
三井住友アセットマネジメント株式会社	東京都港区愛宕二丁目5番1号 愛宕グ リーンヒルズMORIタワー 28階	239,000	3.63

3. 平成28年8月19日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書の変更報告書において、三井住友信託銀行株式会社及びその共同保有者である三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社、日興アセットマネジメント株式会社が平成28年8月15日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書の変更報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号	78,000	1.19
三井住友トラスト・アセットマネジ メント株式会社	東京都港区芝三丁目33番1号	183,600	2.79
日興アセットマネジメント株式会社	東京都港区赤坂九丁目7番1号	14,300	0.22

4. 平成29年4月7日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書の変更報告書において、アセットマネジメントOne株式会社及びその共同保有者であるアセットマネジメントOneインターナショナルが平成29年3月31日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。
- なお、大量保有報告書の変更報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
アセットマネジメントOne株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目8番2号	661,200	3.35
アセットマネジメントOneインターナショナル	Mizuho House, 30 Old Bailey, London, EC4M 7AU, UK	480,600	2.43

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成29年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 900	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 19,736,300	197,363	—
単元未満株式	普通株式 4,000	—	1 単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	19,741,200	—	—
総株主の議決権	—	197,363	—

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社保有の自己株式75株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成29年8月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社薬王堂	岩手県紫波郡矢巾町大字広 宮沢第3地割242番地1	900	—	900	0.00
計	—	900	—	900	0.00

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（平成29年6月1日から平成29年8月31日まで）及び第2四半期累計期間（平成29年3月1日から平成29年8月31日まで）に係る四半期財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

当社は子会社を有していないため、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年 2月28日)	当第2四半期会計期間 (平成29年 8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,683	2,847
売掛金	248	340
商品	10,373	11,317
貯蔵品	16	7
その他	1,374	1,639
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	13,696	16,152
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	※ 12,696	※ 13,893
土地	686	686
その他（純額）	※ 1,439	※ 1,435
有形固定資産合計	14,822	16,015
無形固定資産	200	213
投資その他の資産		
敷金及び保証金	2,543	2,551
その他	1,083	1,126
投資その他の資産合計	3,627	3,678
固定資産合計	18,650	19,907
資産合計	32,346	36,059
負債の部		
流動負債		
買掛金	8,185	10,317
1年内返済予定の長期借入金	1,953	1,953
未払法人税等	761	891
賞与引当金	391	463
ポイント引当金	167	195
店舗閉鎖損失引当金	81	74
その他	1,724	1,913
流動負債合計	13,265	15,809
固定負債		
長期借入金	3,650	3,547
資産除去債務	814	893
その他	245	246
固定負債合計	4,710	4,686
負債合計	17,976	20,496

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年 2 月28日)	当第 2 四半期会計期間 (平成29年 8 月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,080	1,080
資本剰余金	1,331	1,331
利益剰余金	11,957	13,151
自己株式	△0	△0
株主資本合計	14,368	15,562
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1	0
評価・換算差額等合計	1	0
純資産合計	14,369	15,563
負債純資産合計	32,346	36,059

(2) 【四半期損益計算書】

【第2四半期累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成28年3月1日 至 平成28年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年8月31日)
売上高	37,672	41,737
売上原価	29,260	32,070
売上総利益	8,411	9,667
販売費及び一般管理費	※1 6,688	※1 7,760
営業利益	1,723	1,906
営業外収益		
受取利息	14	13
受取事務手数料	57	60
受取補償金	—	※2 253
固定資産受贈益	25	29
その他	41	58
営業外収益合計	139	415
営業外費用		
支払利息	10	8
固定資産除却損	—	12
その他	1	0
営業外費用合計	12	21
経常利益	1,850	2,301
特別損失		
退職給付制度終了損	37	—
特別損失合計	37	—
税引前四半期純利益	1,812	2,301
法人税、住民税及び事業税	677	794
法人税等調整額	△18	△62
法人税等合計	658	731
四半期純利益	1,154	1,569

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成28年3月1日 至 平成28年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	1,812	2,301
減価償却費	752	817
退職給付制度終了損	37	—
賞与引当金の増減額 (△は減少)	109	72
店舗閉鎖損失引当金の増減額 (△は減少)	△3	△6
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	16	27
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△91	—
受取利息及び受取配当金	△14	△13
支払利息	10	8
受取補償金	—	△253
売上債権の増減額 (△は増加)	△64	△91
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△429	△935
未収入金の増減額 (△は増加)	△150	△192
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,974	2,131
未払金の増減額 (△は減少)	186	124
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△63	△103
その他	201	84
小計	4,284	3,970
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	△10	△8
補償金の受取額	—	296
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△682	△684
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,591	3,574
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,984	△1,746
無形固定資産の取得による支出	△55	△73
敷金及び保証金の差入による支出	△25	△86
その他	△38	△22
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,104	△1,929
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	1,500	1,000
長期借入金の返済による支出	△1,072	△1,103
リース債務の返済による支出	△2	△2
配当金の支払額	△295	△374
その他	△0	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	128	△481
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,616	1,164
現金及び現金同等物の期首残高	999	1,683
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 2,615	※ 2,847

【注記事項】

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期会計期間から適用しております。

(四半期貸借対照表関係)

※ 国庫補助金等の受領により、固定資産の取得価額から控除した圧縮記帳額

	前事業年度 (平成29年2月28日)	当第2四半期会計期間 (平成29年8月31日)
建物及び構築物	67百万円	23百万円
その他	16百万円	16百万円
合 計	84百万円	40百万円

(四半期損益計算書関係)

※ 1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 平成28年3月1日 至 平成28年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年8月31日)
給料	2,204百万円	2,455百万円
賞与引当金繰入額	430百万円	463百万円
水道光熱費	421百万円	485百万円
賃借料	1,106百万円	1,136百万円
減価償却費	752百万円	817百万円
ポイント引当金繰入額	47百万円	195百万円
退職給付費用	29百万円	36百万円

※ 2. 受取補償金の内容

第1四半期会計期間において、当社は、大船渡駅周辺地区土地区画整理事業の支障となる大船渡茶屋前店の除却等を内容とする「物件移転補償契約」および「損失補償契約」を大船渡市と締結いたしました。

これに伴い、大船渡市より補償金305百万円を受領しております。なお、受領した補償金から建物等の除却に伴い発生する固定資産除却損41百万円と解体費用等9百万円を控除した金額を「受取補償金」として計上しております。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 平成28年3月1日 至 平成28年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年8月31日)
現金及び預金	2,615百万円	2,847百万円
現金及び現金同等物	2,615百万円	2,847百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間（自 平成28年3月1日 至 平成28年8月31日）

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年5月27日 定時株主総会	普通株式	296	45	平成28年2月29日	平成28年5月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間（自 平成29年3月1日 至 平成29年8月31日）

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年5月26日 定時株主総会	普通株式	375	19	平成29年2月28日	平成29年5月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間（自 平成28年3月1日 至 平成28年8月31日）

当社は、医薬品、化粧品、食料品及び日用雑貨等生活関連商品を扱う小売業を専ら営んでおり、単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第2四半期累計期間（自 平成29年3月1日 至 平成29年8月31日）

当社は、医薬品、化粧品、食料品及び日用雑貨等生活関連商品を扱う小売業を専ら営んでおり、単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自 平成28年3月1日 至 平成28年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年8月31日)
1株当たり四半期純利益金額	58円48銭	79円49銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額 (百万円)	1,154	1,569
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額 (百万円)	1,154	1,569
普通株式の期中平均株式数 (株)	19,740,480	19,740,225

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 当社は、平成28年12月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。平成29年2月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年10月5日

株式会社 薬王堂
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 今江光彦 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 木村大輔 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社薬王堂の平成29年3月1日から平成30年2月28日までの第37期事業年度の第2四半期会計期間（平成29年6月1日から平成29年8月31日まで）及び第2四半期累計期間（平成29年3月1日から平成29年8月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社薬王堂の平成29年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。